

く 久 米 町 ちよう

空中落下の久米仙人

古代に久米町の一帯を「来目邑くめのむら」と呼んだことが、日本書紀・神武天皇二年条の記録で分かります。

時代が下った雄略天皇四年条に至ると、この「来目」が「久米」と書き改められています。大伴氏とともに古代の武人氏族であった久米一族の、長く住んでいた土地だったと判断されます。

その久米氏が、戦闘を鼓舞するため歌ったと伝わる「久米歌」に、戦前よく耳にした「撃ちてし止まん」があります。古代の武人姿で太刀を振り勇壮に舞う「久米舞」も残っていて、いまも久米町に隣接する畝傍町の檜原神宮例祭などで舞われています。

聖徳太子創建と伝わる久米寺が、同町にあります。若い女性の肌を見て心を乱し、飛んでいた空から落ちた「久米の仙人」の話も伝わる寺です。寺には、重要文化財の多宝塔をはじめ金堂や観音堂などの堂塔が建ち並び、毎年五月三日に「久米レンゾ」と呼ばれる会式が、近在の老若男女多数を集めて開かれます。久米仙人像を先頭に観音さまなど二五菩薩像が境内を練り、数十軒の露店も軒を連ねて終日、大にぎわいとなります。